

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）  
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。  
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに  
広くお読みいただければ幸いです。



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1  
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427  
ホームページ <http://myojoyuji.or.jp>

## 竹灯籠能「菊慈童」& 春風亭一之輔師匠落語独演会

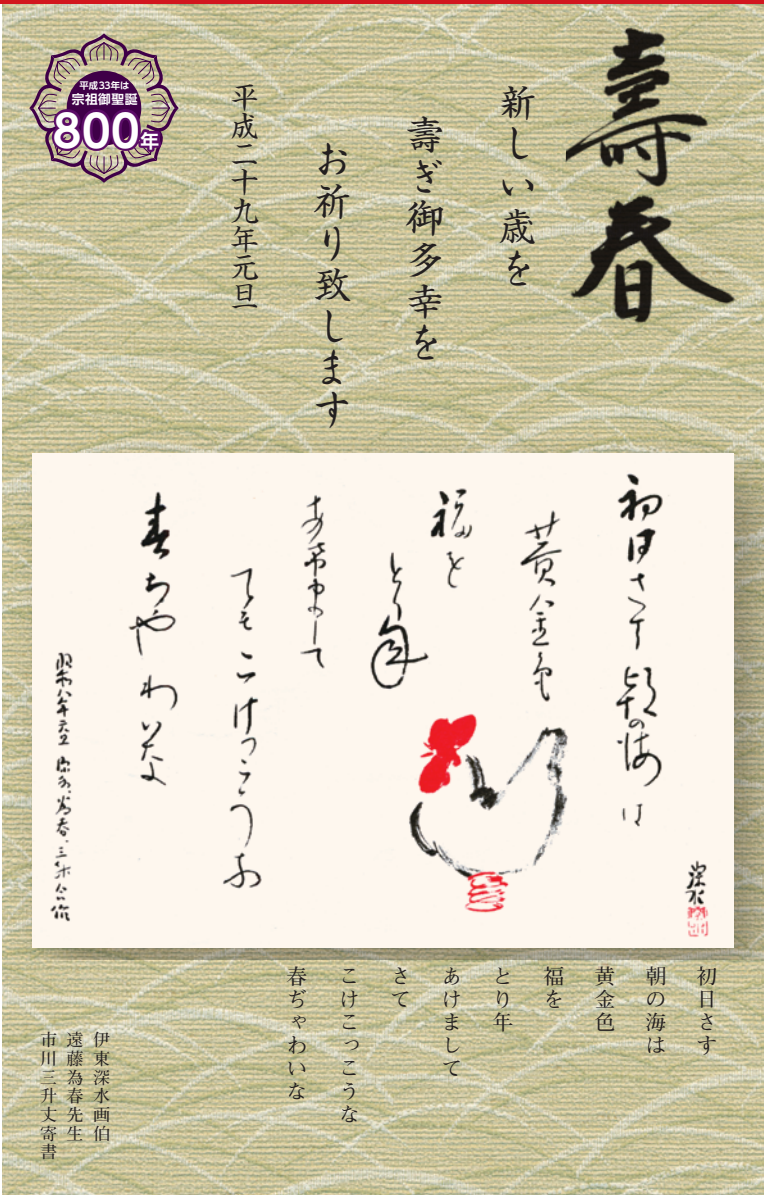
11月19日午後2時より、当山において春風亭一之輔師匠の落語独演会にて演目「転失気」「尻餅」が演じられ①、休憩の合間に鍋島客殿2階にて能「菊慈童」にちなんで菊酒がふるまわれ、その後、浅見慈一師（シテ）のレクチャー、当住上人のお話②の後、延べ300本の竹灯籠に灯りがともる中、雅やかに奉能されました③。



**無縁社会と寺縁その24**

明けましておめでとうございます。  
新しい年を、それぞれ健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。  
昨年一年間、日本各地にアジア・欧米をはじめ世界各国から二千万人を超える人々が来日し、日本の歴史・文化・伝統、そして、今日の生活様式交々を旅行の中で感じ取って行かれました。そこには、日本人の思いもよらない着眼点や価値観があるように思われます。  
ところで、改めて文化はデジタルではなくアナログであり、二千万人には二千万人の文化があると思います。デジタル信号はドットの集まりであり、汚れた点は、実は犬だったりすることがあります。  
ドットには、生き物の命を映し出すことが出来ないように思われ、その対岸には「ふれあい」があると思います。  
逆に言えば、二千万人のアナログこそ生きることの発信であり、文化を形作る核と言えます。来年、1月17日は、阪神大震災二十三回忌。3月11日は、東日本大震災七回忌を迎えます。其々の一日が、決して大事件の一日であったのではなく、六千人の命、二万人の命それぞれが命が悲しく終わってしまった六千の事柄、二万の事柄であったと思います。  
お寺として、宗門として出来ること「供養と祈願」を旨として、これからも努めてまいります。

鴉 鵲



| 宗務院 DIARY            |                      |
|----------------------|----------------------|
| 10/18 ▶ 法華学園理事会      | 10/24, 25 ▶ 宗門史編集委員会 |
| 11/9 ▶ 内局会議          | 11/16 ▶ 責任役員会議       |
| 12/14, 15 ▶ 宗門史編集委員会 | 12/6-8 ▶ 宗務院研修会      |

### 護法会の御加入について

日頃は護法会会費の納入につきまして、ご理解ご協力いただき有難くお礼申し上げます。近年、名簿等の整理を進め未加入、未納の方々にもご理解いただき、護法会にご協力いただいております。今後は継承時（名義変更時）に改めてご説明をし、ご加入の促進に努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

### 墓地部から墓地内清掃についてお願い

- 檀家墓地内の樹木を切るときは、事前に墓地管理者（担当：西澤）までお知らせください。また、墓地内に設置してある屑籠（管理棟前）の中には木や草のゴミ、草を絶対に入れないで必ずお持ち帰りください。
  - 落葉につきましても、持参した袋に入れて屑籠（管理棟前）横に置いてください。
- ご協力をお願いいたします。

### 妙壽寺 2017 春夏スケジュール

- 2月3日(金) 節分会
- 3月20日(日) 春の彼岸中日法要
- 5月3日(水) 猿江稲荷大祭
- 7月16日(日) 孟蘭盆会施餓鬼法要

### 正隆会

【SHORYU-kai】  
午後2時開催

月例講  
ご案内

- 1月14日(土) 初題目、勉強会「法華経の略要品」拝読-2-
- 2月3日(金) 節分法要・写経会
- 3月11日(土) 東日本大震災第七回忌・東京大空襲追悼会
- 4月8日(土) 勉強会「法華経の略要品」拝読-3-

### 予告

6月9日(金)  
正隆会移動月例講として、東日本大震災第七回忌を迎えて3カ月後の宮城県被災地を巡拝したく存じます。詳細は次号にてご案内いたします。

**寺日記** てらにつき

- 9月6日 山中延勇輝師匠 新橋演舞場出演  
新派9月特別公演「婦系図」清元に出演。婦人有志は観劇して、その美声に聞き惚れました。
- 9月8・9日 法華宗教学研究所総会  
於 ホテル エルセラーン大坂
- 9月10日 中村法孝師得度式  
正隆会において、当住上人を師僧として中村孝之氏（当山世話人）が得度式を受け、11番目の徒弟（弟子）として受戒されました。10月より3期にわたり行われる教師養成特別講習会の壮行会が9月22日に催されました。
- 9月15日（公財）全日本仏教会60周年  
正副部長会議 於 芝公園・明照会館
- 9月22日 彼岸会中日合同法要  
参詣者400余名の募参をいただきました。
- 9月27・29日 東京教区教学講習会  
於 日本橋区人形町宗務院、当山より5名受講①
- 9月30日 妙善寺（烏山寺町）  
先々代坊守（ぼうもり）住職夫人 通夜参列
- 10月1日〜6日 教師養成特別講習会第1期  
於 茂原・大本山鷲山寺。当山より中村法孝師参加（この後、第2期、第3期と参加）
- 10月2日 常在寺法燈継承入退山式  
山梨県河口町常在寺において、森智洪上人がご勇退され、新任職として森隆信上人が法燈継承されました。②
- 10月7日 正隆会・婦人会  
キューピーマヨネーズ仙川施設見学  
総勢28名が参加し、マヨネーズの歴史や試食などを体験し、見学は好評。当山へ戻り、客殿2階にて昼食は鰻。その後、三遊亭とむ師を迎えて仏事問答、さらに落語「芝浜」を堪能しました。③
- 10月11日 東京ブディストクラブ  
宮城県被災地巡拝  
新幹線にて仙台、バスにて石巻・西光寺において法要、ご住職のお話、昼食後、女川町被災地、また「蒲鉾高政」訪問。名取市に戻り、閑上「語

- り部」のお話を拝聴。日和山参拝、読経。仙台帰着。
- 10月26日 日蓮門下連合会京都理事會  
於 大本山妙蓮寺法要、京都ブライトンホテル（理事會）
- 11月3日 当山御会式  
日蓮大聖人第七三五遠忌御報恩御会式、300余名のご参拝をいただきました。
- 11月4・9日 教師養成特別講習会第2期  
於 尼崎大本山本興寺
- 11月16日 西之坊入院式  
宗務院書記を務められた宮村光明上人は、沼津・大本山光長寺塔頭西之坊の住職に就任され、その法燈継承法要と祝賀會が催されました。
- 11月21日 東京都仏教連合会  
100周年記念法要・講演会  
於 芝・増上寺、講演Ⅱ池上彰氏
- 11月28日 歴代法要 総代会・お祝い会  
当山において総代会に続き、歴代上人報恩法要が奉修され、席を移して懇親會が行われました。
- 11月29日 法華宗 陣門流佐古弘文宗務総長（本極院日研聖人）本葬儀  
於 田端・大久寺
- 12月1日 松枝会  
於 熱海聚楽ホテル
- 12月3日 ENKAI（縁会）

### KUGENRIYA & SAN FRANCISCO 鵠沼・桑港から

晴明庵▶ 11月23日  
お会式法要が24名の参加のもと、奉修されました。

桑港▶ 11月13日  
40名余の参詣を得て、お会式法要を奉修。また、前日にはコルマ日系墓地足立家墓所にて足立日出子刀自（智覚院妙壽日琴大師）の埋葬式が執り行われました。

- 12月23日 当山お焚き上げ法要・煤払い
- 12月16日（公財）全日本仏教会  
60周年部会正部会長會議
- 12月12日 東京ブディストクラブ  
チャリティーパーティー 於 帝国ホテル
- 12月10日 正隆会三千遍題目唱題會
- 12月10日 立正寺歴代法要  
於 広島平和公園にて法要。呉・宮島見学
- 12月10日 立正寺において、開基白蓮院日定上人第五十回忌、第二世長寿院日龍上人第十三回忌、同内室常唱院瑞蓮妙浄法尼第一周忌が東京教区宗務所長永隆寺住職木下信隆上人お導師にて厳かに執り行われました。

法華宗の独身僧侶寺院・檀家のご縁を結ぶ会がグランドニッコー東京台場において開催。





# 本堂落慶30周年記念インタビュー

## 内藤昌平氏（元ベルギー大使）・容子夫人①

聞き手 三吉廣明主人  
平成28年10月20日於・恵比寿の内藤宅にて

### 欧州外交の背景

**住職** 本日は、よろしくお願いたします。  
内藤様のお宅とのかかわりですが、私がお盆のお経をあげるために、私の人生の中で、最も遠い距離に行ったのがベルギーのブリュッセルです。まずそのお話から始めたいと思います。

ご主人が、ブリュッセルでベルギー大使を務められていた頃で、奥様からご連絡いただいたと思いますが、お盆の棚経のご依頼でした。確か、ご滞在の最後の年だったと。

**容子夫人** 2006年の11月に日本に戻って参りましたので。

**住職** 私が参ったのは、その年の夏ですね。

**内藤氏** 10年前ですね。

**住職** 私の人生の中で、非常に大きな出来事でした。ありがとうございます。

**容子夫人** こちらこそ。

**住職** 当時、ご主人のお話の中で印象的だったのは、ヨーロッパで大使を任務するということは、どういうことかをご説明されました。例えば今、日本はお隣の中国といろんな問題が起きていますが、そうしたときに、成熟した文化・歴史を持つヨーロッパの方々に日本の立場を正しく理解していただくために説明するのが自分の大きな役割ですとおっしゃいました。そのことを、私は非常に印象深く思っています。楽しいお話もたくさんありましたが、やはりそのようなご活動で大使を務められたわけでございますね。

**内藤氏** そうですね。ベルギーは極めて日本を親しく考えてくれる国ですので、そういう意味では仕事はやりやすかったと思います。今、住職がおっしゃるとおりの使命を持っていたわけですが、その中でも親しい国民が日本に親近感を持っている国ですから、良い雰囲気でした。

ただ、それは、一朝一夕にできることじゃないんですね。長い間のお付き合いですので、私は3年間の大使の仕事をしておりましたけれども、歴代の大使もその任務をずっと引き継いでやってきたわけですから、その蓄積です。



三吉住職

しかし、それ以上に、やはり国民同士の

接触が一番説得力があるわけですね。さらに加えて、当然経済的な利害関係という問題もあります。その点、日本の企業がヨーロッパに進出する際に、ベルギーはいろいろな受け入れの便宜を図ってくれるという国でしたから、日本企業がたくさん進出しています。そうすると、ベルギーにとっても経済的利益をもたらしてくれるということで、よく外交関係で「ワイン・ワイン関係」といいますけれども、双方にとって利益をもたらす関係というのが日本とベルギーの間にはありましたから、そういう任務は非常にやりやすかったということと言えます。常にそのことを心がけていたことは確かですね。

**住職** ブリュッセルは、EU機関本部がありますが、そのあたりは、いかがでしょうか。

**内藤氏** EUはEUとして、いろいろなメンバー国から依頼された仕事を持っているわけです。最大の問題は貿易関係。ベルギーが日本と直接交渉するのではなくて、EU全体として交渉するということで、経済分野で非常に大きな仕事を持っているものですから、そのEUに対する接触の窓口は、もう一人大使がいまして、EU担当大使です。私はあくまでもベルギーという国に対する大使です。同時に、ブリュッセルにはもう1つ重要な国際機関がありまして、NATOという、アメリカと西ヨーロッパが共産圏からの脅威に対する軍事同盟で、そちらのほうに私は接触する役割も持っていたわけですね。

ですから、ベルギーに対する仕事とNATOとの関係。NATOとの関係というのは、戦後日本はあまりああい集団的軍事同盟とは関係を持たなかったわけですね。昨年、昨年の安全保障法案でいろいろ問題になりましたけれども、そういう点について今までは、集団防衛は御法度であるということで、そういう組織と付き合ってはならないといわんばかりの問題がありました。私の頃は雰囲気はだんだん変わって、まさに去年のああい法案の、いわば1つの下地づくりという意味で、日本とNATOの関係は少しずつレベルアップしていくという任務があったものですから、そちらの仕事も私の任務の重要な半分を占めていましたね。

### 外交官への道

**住職** ご主人が外務省に入省された動機というのは、やはり外交官にと。

**内藤氏** 外務省というか、外国に行きたかったと。しかし、その当時は、外国に行くというのはなかなか大変なことでしたよね。たまたま家内は留学ということでしたけれど、しかし、それなかなかつらい生活で



内藤昌平氏

したよね。当時、外貨の持ち出しとかいろいろ制約がありましたから。ちょうど50年前ですね。その頃外国に行けるというのは限られて、しかし、外務省の場合、たまたま父のかつての部下の方で、その後外務省に入られた方がおられて、いろいろ話を聞くことができたんですね。そうすると、外務省に入ると外国に派遣されて、その間、外国の学校で勉強してお給料がいただける。

要するに、入った途端に公務員になって、それで留学させてもらえるという。これはということ、とにかくそういうことに入ろうということでした。

**住職** なるほど。外務省に入られたときに、何かご自分が思っていたことと違うこととか新鮮なこと、印象的なことはありましたか。

**内藤氏** まあ、外務省そのものの雰囲気は、非常に家族的な雰囲気といいますか、同期も24人と限られていますし、先輩からいろいろ体験談を伺うという研修生活が3カ月ありまして、すぐ外国に派遣されるわけですよ。それで2年間大学に行っているわけですね。勤務体験も何もなしです。これが一番幸せな時期でしたけれども。

その後、パリの大使館勤務になりましたけれども、これも大使館という小さな組織ですから、その中で先輩からいろいろ仕事を教えていただくという、非常に家族的な雰囲気がありましたね。でも、それよりもやはり外国に行くというショックーショックというか驚きですね。外国というのは日本と違うんだということを改めて体験するというのが一番新鮮な驚きでしたね。やはり大学を卒業するまで外国なんて行っただことがなかったわけですから。そうすると、幸い先進国ではありましたが、その生活ある意味本当はいろいろな、ふだんの生活からして違う。

それが一番の、これが外国、日本でないところというのはこういうものなんだなというところ。それがずっと、やっぱり仕事の中でそれを認識して、常に日本と外国というのをずっと頭の中に入れていたのが40年の職業生活でしたね。

### ベルギーとデンマークの王室

**住職** ご主人はデンマーク大使もお務めされていましたが、あちらの王室のお話も若干聞かせていただきました。ざっくりばらんで、大

変おもしろかったのは、デンマークにおられたときに、当時、女王陛下がお怪我をされて、新年のご挨拶をなさるのは夫君の王配殿下だご自分で思っていたのが、皇太子だったと。それでがっかりして実家に帰ってしまったと。女王陛下がお迎えに行つたというお話です。それは普通の夫婦げんかですね。（笑）

**容子夫人** ほほ笑ましいお話でした。

**住職** ええ。デンマークとベルギーというのは、やはり歴史も文化も相当違う国ですが、王室もまたいろいろと違うのでしょうか。

**内藤氏** それは違います。デンマークはヨーロッパで一番古い王室です。ただし、長い歴史の間に今のように小さい国になってしまいましたけれども、一時は、紀元1000年の頃に、クヌートというデンマークの王様はイギリスの王様も兼ねていました。要するに、あの境界の海、北海という海ですけれども、北海がいればデンマーク王国の南海のような、スカンジナビア全部は言うに及ばず、イギリスもクヌートの領土という支配下にしていたのです。そういう時代もあったぐらいに古い王家なのです。一方、ベルギーという国は、いわば人工の国でして、大雑把に言えばオランダの南とフランスの北を両方引き剥がして、合わせて1つの国にしたと。それが、1830年のことでした。

ベルギー王国としては、そのぐらいの歴史しかない。ただし、ベルギーの主力であるフランダースという地域は、これは昔からイギリスとフランスの係争の地で、百年戦争というのがありましたが、百年戦争の最後にジャーンヌ・ダルクが出てきたわけですが、イギリスがヨーロッパ大陸に常に関心を持っていたのは、このフランダースの毛織物産業というのがずっとヨーロッパの最先端産業だったわけですね。ですから、ルネッサンスの時代もそこでは美術が非常に盛んになってファン・アイクとか、いろいろ有名な画家がおります。ルネッサンスの時代ですよ。イタリヤとフランダースというのは、同時代に絵画が最先端でした。ですから、フランスにしてもイギリスにしても、そこを片方の支配下に入れられることは困るということ、常にフランダースをめぐるフランスとイギリスは戦争していたんですね。ヨーロッパではいろいろなことで離合集散があったあげく、国際会議で、それじゃあ、ここに双方が関与できない独立国をつくらうじゃないかというのでつくられたのがベルギーという国なんです。ですから、1830年にでき上がって、まだ186年でしょう。

**住職** その頃から王室はあったのですか。

**内藤氏** その頃から王室はあったのですか。



容子夫人

ということ、ベルギーの地域にも大公という家柄がありまして、私どももお付き合いがありましたけれども、その当主のご先祖の方が辞退されたんですね。地元の人ですが、そこで、ドイツは昔から地域で分かれていたから、その1つの、ドイツの一地方の領主の家から、王様になってくださいということとで今の王家が成立したわけですね。

**住職** ベルギー王家ですね。

**内藤氏** 一方、日本が明治維新で新しくなつて、そこでヨーロッパの国々といわゆる外交関係をつくった。それが今年で150周年というところで、つい先週、ベルギー国王、王妃の両陛下が国賓としてお見えになったんですよ。そういうことで、我々も先週はベルギー週間だったんです。

**容子夫人** 宮中晩餐会とかです。

**内藤氏** それはそれとして、今お尋ねの王家の歴史という意味では、デンマークは一番古い王家、ベルギーは、いわばヨーロッパでは一番新しい王家ということですね。

**住職** 両国の大使をお務めになったというのは、大変な栄誉ですね。

**内藤氏** コントラストがありますね。それ以外にもカンボジアでは、シアヌーク国王の時代でしたから、そういう意味では、私は、いずれも王室の国で大使を務めることができたというのは、またありがたいことだと思っております。

### カンボジア大使赴任・ポル・ポト派脅威の時代

**住職** カンボジアのお話をぜひと思っております。私も十数年前に初めてアンコールワットに行きまして、もう本当にすばらしい。大変印象的だったのは、王家の信仰によつて仏教のときがあり、ヒンズー教のときがありという、宗教によつて違う。でも、それが1つの場所です。共存して建物がある。魅せられるものがありましたね。それが残っているということはずいぶんいいことです。

カンボジアの大使を任務されておられた時は、当時はシアヌーク国王ですか。やはりカンボジア王家も古いのでしょうか。

**内藤氏** カンボジアは、まさにアンコールワットの時代が全盛期だったわけですね。

**容子夫人** クメール真臘を統一したのは、七世紀、ジャヤバルマン1世ですか。

**内藤氏** 彼女はカンボジアに強いから。（笑）

**容子夫人** そうじゃないですけど、アンコール王朝を最初に建てたのは802年にジャヤバルマン2世。シェムリアップでバイヨン建てたジャヤバルマン、あちらは7世ですね。

**住職** アンコールワットとは別に、もっと奥地にもあるということで、ジープで行かれたと聞きました。

**容子夫人** タイ国境のプレアヴィヘアというところ。私どもがいるときには、もちろんアクセスもなかったし、仮に行くとすればタイ側からしか行けなかったのを、あれは何年前でしょうか、とにかくカンボジアのほうから上つていけるように、600、700メートルの絶壁みたいなところを削って、上つて



駐カンボジア大使として故シアヌーク国王陛下と懇談

XXXXXXX  

### Profile

ないどう しょうへい  
**内藤昌平 氏**  
元駐ベルギー王国大使。退官後、ベルギー ユミコア社取締役、ホテルオークラ東京顧問を務めた。昭和41年東京大学法学部卒。同年外務省入省。外務省では、平成9年領事移住部長。平成11年儀典長を歴任。海外では駐カンボジア大使や駐デンマーク兼リトアニア大使などの要職を経て、平成15年から平成18年の約3年間、駐ベルギー大使を務めた。

XXXXXXX